平成31年4月１日　一般社団法人ITC-Pro東京

第4回 ITC三方よし新聞

「経営に役立つIT活用」を通じて、「中小企業」「支援者」「地域社会」の三方が笑顔になるためにはどうしたらよいか。
ITC-Pro東京のITコーディネータ・連携会員が共に考えます。

「ITC-Pro東京」は、中小企業の経営課題の相談から　ＩＴ活用による成果の実現までワンストップで支援できるＩＴコーディネータを核とした各分野の専門家ネットワークです。
中小企業の生産性向上の中でも、「原価管理」をどのように行うかは中小企業にとって大きな課題の１つです。
今回「原価の道場」を立ち上げ、長年中小企業の原価管理の専門家として活動されているビジネス会員の中畑氏に事例も交え執筆いただきました。また、ビジネス会員の中でも新たに株式会社を立ち上げられたお二人にもITコーディネータとして、経営者としての会社設立への想いをお伺いしました。

特集

売上1億で利益100万の会社と、売上1000万で利益100万の会社、どっちがいい？
サービス業でも原価管理・原価管理のポイント

原価の道場　代表　　https://ka-consul.jimdo.com/

中小企業診断士　経営革新等支援機関　事業再生アドバイザー

中畑　慎博

上場企業にてグループ会社60社の業務改善、情報システム活用に従事。大企業の視点と中小企業の現場の両方を熟知している。2015年、原価の道場を独立開業。得意分野：事業再生、事業承継、経営改善、業務システム活用、エリアマーケティング（GIS、行政データ活用）

売上1億で利益100万の会社と、売上1000万で利益100万の会社、どっちがいい？

こう質問されたとき、他の条件が同じなら「売上1000万で利益100万の会社」と即答しますよね。

この質問だけでは、差がどこから来るのか不明ですが、結果は「利益率」で表すことができます。前者は利益率1%、後者は10%です。

原価管理とは、この利益率に注目して、高い利益を稼ぐためにどこを改善するかを、つかむための方法なのです。

サービス業でも原価管理

「原価管理って製造業がやるもんじゃないの？」と疑問を持たれた方。最近は、サービス業でも原価管理をしている会社が増えているのを、ご存知でしょうか。以下に、サービス業での原価管理の事例を紹介します。

事例：エキストラ派遣業

映画の制作会社から注文を受けて、エキストラを派遣する会社です。

当社では、エキストラに支払う謝金、交通費、軽食、小物などを経費として支出します。

当初はドンブリ勘定だった原価も、「作品別原価管理」をおこなうように仕組みづくりを進めました。その結果、作品別の利益率や、どの費用でムダ使いをしているか、などがつかめるようになりました。

原価管理のポイント

原価管理の仕組みづくりでポイントとなることが、いくつかあります。

仕組みを簡単にする

例えばエキストラ派遣業の場合、本部社員は作品を複数掛け持ちしており、人件費を何らかの比率で按分する必要があります。この比率の記録方法を複雑にすると定着しません。

精度を欲ばらない

最初は足並みがそろわず、実態とかけ離れた数字が出ることもあります。結果をみて改善するために原価管理をおこなうので、最初から高い精度を欲ばる必要はありません。

完璧を目指さない

時間を分単位で計ったり、材料をグラム単位で測ったりしても、原価に大きな差は出ません。経営改善につながるレベルでの管理にとどめるのが肝です。

事前に調整を図る

作業日報を記録したり、仕事の仕方を変えたり、従業員にお願いすることが多々でてきます。事前に関係部署と調整を図るのが良いでしょう。

原価管理は、一足飛びでは
実現できません。
自社に合わせたペースで
ゆっくり着実に！

「電子カルテ」に、仕事人生の夢をかけてみたい

ヘルステック企業、特にAI利用のフレッシュな企業へのスタートアップ企業支援
ヘルスケアサービス事業者向けの情報マネジメントテクノロジーを提供

ヘルスブリッジ株式会社 代表取締役 パートナー　https://healthbridge.co.jp/

ITコーディネータ

高橋 道也

ヘルスケアサービス事業者様向けに情報マネジメントテクノロジーのご提供と、ヘルステック領域のスタートアップ企業様に事業開発支援を行っております。お客様ならびにパートナー様との価値共創を通して、将来の健康な社会づくりにお役に立ちたいと考えております。ITコーディネータ／経営品質協議会 認定 セルフアセッサー（JQAC）／ISO/IEC27001 ISMS審査員補（JRCA）／医療情報技師（日本医療情報学会）／英国経営大学院にて 医療経営管理学 Postgraduate Diploma を保有します。

ヘルスブリッジ株式会社代表取締役の髙橋道也です。今年1月に会社を設立し、2月より営業を開始いたしました。といっても3月現在未だ管理業務系でバタバタしておりますが。

今回、この「三方よし新聞」のスペースをお借りしまして次の二つについて簡単にご紹介させていただきます。一つは、現在齢55になる小生が会社設立に至った経緯について、もう一つはそこで取り組んでいく事業内容についてです。

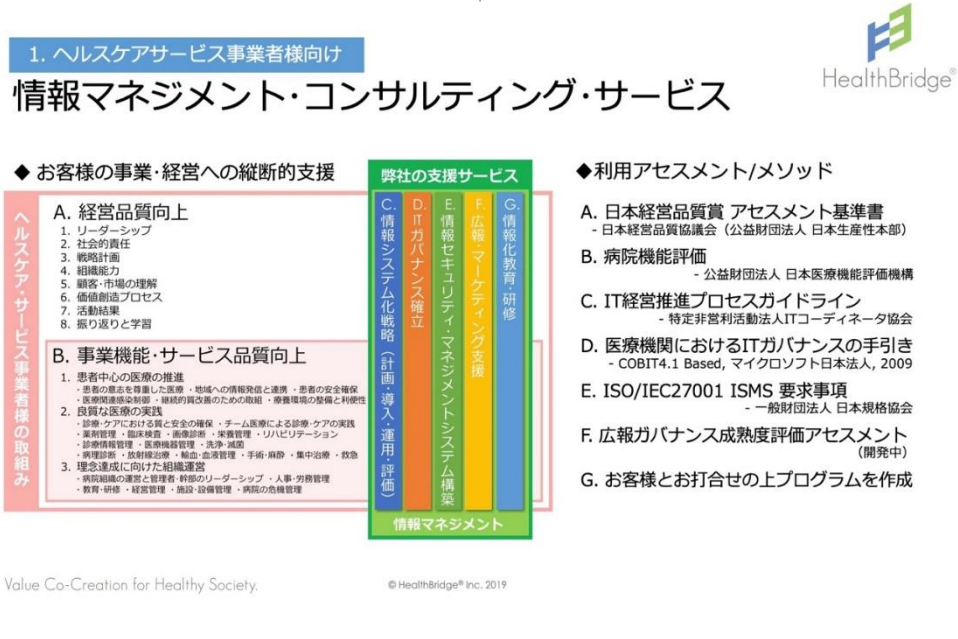
はじめに会社設立の経緯ですが、振り返って考えてみれば、その内的動機がおよそ30年前に社会へ出た時にまで遡ってしまうことに自分でも驚きます。というのは、最初の仕事は病院の医師に薬の宣伝を行う今で言う製薬企業のMRという職に正に「なんとなく」就いたのですが、この間約10年で経験したヘルスケア･ビジネスの非合理性（お医者様のワガママ、とは言いません）、これは何とかならないかと感じていました。特に時代は90年代でしたから、一方で進む世の中のIT化の流れとそのギャップの大きさには幻滅するばかりでした。しかしむしろ多少PC等の知識があった私は「電子カルテ」なる当時のバズワードに（当時、その現物は未だありませんでした）仕事人生の夢をかけてみたいな、などとも考えていました。

この時の思いが、謂わば今でも続く私の内的動機＆会社設立の経緯発端と言えそうです。
そして思い切りよく34歳でIT業界へ転身してからは、国内医療情報システム･ベンダーで約10年、外資系ITプラットフォーマーでのヘルスケア事業開発を約10年経験しました。昨今言われる100年人生、もう後半は自分でヤルシカナイじゃ無いですか（笑

そこで、この人生後半、自身の会社で取り組む事業は大きく二つと考えています。
ひとつは、**スタートアップ企業支援**です。「医療IT」という言葉を古くさくも感じさせる「**ヘルステック」企業、特にAI利用のフレッシュな企業へ、そのいまだに非合理的なヘルスケアマーケットの道案内役を務めたい**と考えています。

そしてもう一つは、直接的に**ヘルスケアサービス事業者様（平たく言うと病院様）向けに、情報マネジメントテクノロジーを提供したい**と考えています。Society5.0よろしく、AIやらIoTやら、お客様が現業にどのような関係があるのか翻弄されてしまっては、後半人生の私自身も困ってしまいます。その内容については図にお示ししますが、核になるのは、そう、ITCのバイブルとも言える「IT経営推進プロセスガイドライン」です。（やっと繋がりました）

図のようなアセスメント／メソッドをお客様と共有しながら、ヘルスケアビジネスの効率化や質向上による健康社会の実現に、後半人生のためにという私ゴトとしても取り組んで行きたいと考えております。
みなさまよろしくお願いいたします。



今月の注目 ITコーディネータ　～ITC-Pro東京のケース研修受講後、株式会社設立～

中小企業の業務とシステムの運用状況に注目

さまざまな理由で生じる『ゆがみ』を、論理的に技術的に解消

株式会社テクノスイッチ　代表取締役　　https://www.technoswitch.co.jp/

ITコーディネータ

中島 竜郎

自動車メーカー、商社の関連会社情報システム部門で、20年に渡り企画、開発、運用、統制の業務を経験。製造・物流・小売・サービスの各業界に強み。2019年株式会社テクノスイッチ設立。業務とシステムの運用状況に注目し、さまざまな理由で生じる『ゆがみ』を、論理的に技術的に解消します。

皆様はじめまして。2019年1月にITコーディネータの認定を頂きました中島と申します。

私はこれまで約20年に渡り、自動車メーカーと商社の関連会社情報システム部門で、システム企画・開発・運用・統制の各業務を経験してまいりました。そして会社員生活に別れを告げ、2019年３月に株式会社テクノスイッチを設立し、事業者様の売上アップやコスト削減に貢献する事業、入力装置やセンサーなどの機器の製造・企画・販売事業、技術者の交流会などのイベント事業を行っております。

ITコーディネータ資格取得の動機は2つあります。**1つ目は、40歳を過ぎ、これまで業務で経験してきたことを整理してみようかなと考えていたところ、自分のやってきた仕事内容に近い資格制度があると知ったことから。2つ目は、このまま同じ会社内で働き続けることで特定の人材交流に収まってしまうことに恐れを抱き、社外の人との接点を持ちたいと考えたことから**です。思惑通り自分自身を整理することができ、ITC-Pro東京を通じ多くの方々との接点を増やすことができたことから、資格を取得して良かったと実感しております。

次に、会社設立の動機についてお話しておきたいと思います。もともと会社経営には関心がありましたが、遠い世界のことと考えていました。資格取得と前後して、短い人生、やらずに後悔するよりは、との思いがむくむくと頭をもたげ、思い切って独立して会社を設立して経営を始めてみることにしました。このように、頭で考えるよりまずやってみる性分です。この選択が吉と出たのか凶と出たのかは、追い追い歴史が証明してくれるものと思います（筆者、滝のような冷や汗）。

さて、**独立後は中小企業や個人商店の方々とお話する機会を設けて、できるだけ現場の話を伺うようにしています。**サンプル数は少ないですが、多くは情報システム専門人員を用意できるほど余裕があるわけではなく、片手間であったり業者に丸投げであったりというケースが大半です。システム構成は決して頑強なものではなく、利活用はもう一歩と見受けられることも多いですが、予算やマンパワーの制約から、やむなく騙し騙し利用している状況も珍しくないようです。

我が国では労働人口の減少が急速に進み、社会の緊急の課題となっています。

この課題に正面から向き合い、ITC-Pro東京やシステムベンダの皆様と力を合わせながら、多くの事業者様の経営に貢献できたらと考えております。そのためにも横の連携を大切に、日々勉強を怠らず精進してまいります。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

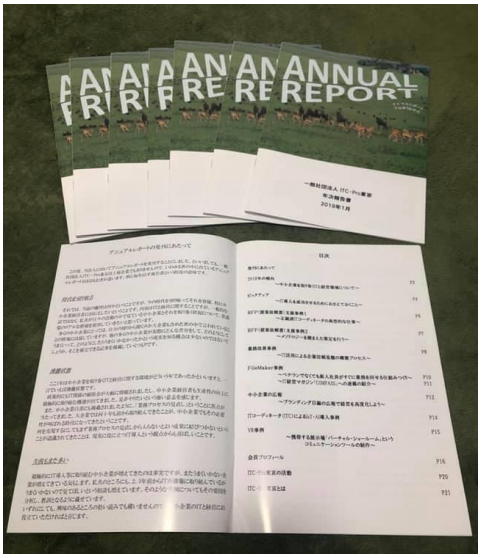
経済産業省推進資格ITコーディネータ（ITC）とは

2001年、通商産業省による国家プロジェクトの一環としてＩＴコーディネータ資格制度は設けられました。現在、経済産業省の推進資格として、約6500名の資格保有者が全国各地で活動しています。

ＩＴコーディネータは、真に経営に役立つＩＴ利活用に向け、経営者の立場に立った助言・支援を行い、ＩＴ経営を実現する人材です。経営革新・業務改革ニーズに合致する戦略的なＩＴ利活用の推進人材として新たな役割を担います。

ニュース＆トピックス

アニュアルレポート（年次報告書）を発行



2018年度の活動を振り返り、アニュアルレポート（年次報告書）を発行いたしました。
今の時代を切り取りながら、特に中小企業経営者にお伝えしたいことをまとめております。
問合せは法人ホームページ「お問い合せ」へ。

2019年2月21日　日刊工業新聞の記事として掲載されました。

2019年度第1期ITコーディネータケース研修　受講生募集中！

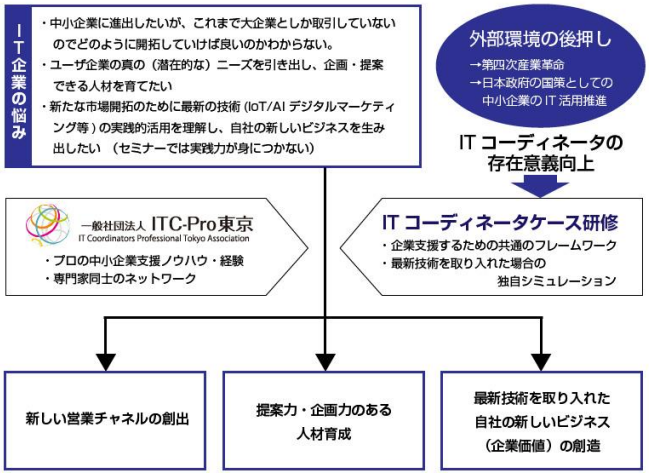
募集期間　2019年3月11日(月)～6月17日(月)

ITC-Pro東京が開催するケース研修でITコーディネータ資格を取得するメリット

中小企業支援のプロ集団が、
経営者視点で提案・実現できるITコーディネータを育成します。

ITC-Pro東京を通じて、
ITコーディネータ資格を最大限にビジネスに活かせます。

IoT/AI 等最新の技術を取り入れた
独自（アレンジ）カリキュラムを設けています。



ITC三方よし新聞　第４号（2019年４月）
発行元）一般社団法人ITC-Pro東京
編集：株式会社ITC総合研究所

一般社団法人 ITC-Pro東京
IT Coordinators Professional Tokyo Association